

# 飲もう!



# 大吟醸原料 威信懸け栽培

大吟醸酒に適した酒造好適米「山田錦」は、西日本が主産地で、従来は新潟県での栽培が難しいとされてきた品種だ。同県山田錦協議会は、栽培3年目で、冷涼な気候に合った技術を確認。作付面積も設立当初の40秒から、3倍の120秒まで伸ばした。

「米どころの新潟で栽培することに意義がある」と、威信を懸けた取り組みが続いている。

「米どころの新潟で栽培することに意義がある」と、威信を懸けた取り組みが続いている。

「米どころの新潟で栽培することに意義がある」と、威信を懸けた取り組みが続いている。



協議会は2014年設立した。現在は生産者87人が加入。目標収分量には1万俵(1俵60キ)を掲げ、県内各地で栽培研究に取り組み。こうした取り組みの成果が認められ、15年度の

協議会は2014年設立した。現在は生産者87人が加入。目標収分量には1万俵(1俵60キ)を掲げ、県内各地で栽培研究に取り組み。こうした取り組みの成果が認められ、15年度の

協議会は2014年設立した。現在は生産者87人が加入。目標収分量には1万俵(1俵60キ)を掲げ、県内各地で栽培研究に取り組み。こうした取り組みの成果が認められ、15年度の

協議会は2014年設立した。現在は生産者87人が加入。目標収分量には1万俵(1俵60キ)を掲げ、県内各地で栽培研究に取り組み。こうした取り組みの成果が認められ、15年度の

協議会は2014年設立した。現在は生産者87人が加入。目標収分量には1万俵(1俵60キ)を掲げ、県内各地で栽培研究に取り組み。こうした取り組みの成果が認められ、15年度の

特等米で生産意欲を高める新潟県山田錦協議会

# 攻めの農業 特等で勢い

